

東葛しぜん観察会(自主研修会)

シダ植物入門

小島紀彦(我孫子市)

日 時：8月8日(土) 10～15時

場 所：午前中は 座学(我孫子市「近隣センター こもれび」)

午後は 「谷津ミュージアム」でフィールド研修

参加者：指導員14名 その他13名 計27名 担当指導員：鈴木とし子

身近で見られるのに何となく難しく思われている「シダ植物」について、千葉県生物学会副会長と佐原高校の先生である谷城(やしろ)勝弘先生を講師にお招きしての研修会が行われた。

参加者が27名と盛況の中、午前中は室内での座学で先生の自己紹介や専門はシダとスゲ関連のカヤツリグサであるとの話から始まり、先生が発行された野外観察ハンドブック「シダ植物」の本を見ながら、シダの生活史、シダの形と分類、押し葉標本の作り方、先生が見つけられた新雑種などについての説明があった。

午後はフィールドに出て、実際のシダを見て歩く。イヌワラビから始まってシケシダの種種(シケシダ、コセイタカシケシダ、ホソバシケシダ、フモトシケシダ、ムサシシケシダ)、ミドリヒメワラビ、ヘビノネゴザ、ハシゴシダ、ベニシダ、ワラビ、ゼンマイ、ハリガネワラビ、アオハリガネワラビ、ミゾシダ、トラノオシダ、ヤマイタチシダ、ミサキカグマ等の特徴、見分け方を教えて貰った。次から次へと先生に説明を頂いても何となく同じに見え、もう一つ見分け方が分からない状態で、“先生どうして分かるのですか”との単純な質問などあったが、シダ植物の同定の難しさのみを感じたという実感でした。途中でシダのみでなく、植物の雑種が多々あり、イヌヌマトラノオ、アイムラサキシキブ、アイグロマツなどの種類の説明も教えて貰った。

<感想> 夏の季節の観察会であったが、フィールド研修は曇り空で日差し真っ盛りでなく、汗もかかずに歩いてとても助かりました。研修会はシダ植物入門になっていたが、内容は入門でなく相当詳しい話でした。シダ植物の研修会は難しいものと思っていたが、やはり難しかったです。結果は何回も何回も見て覚えてという基本が大事であると思いました。自主研修会でしたが、会場設定から講師に来て頂く世話や何から何まで細かに配慮された内容で素晴らしかったです。

「シダ植物の学習・観察会」に参加して

北山 繁(松戸市)

午前中の座学は、講師が現役の高校理科教員であるせいか、シダ植物の生活史について、生徒に教えるように大変分かり易く説明していただいた。時々入れるジョークに笑いを誘われ、眠気も吹き飛んで聴き入った。シダ植物は海から陸に上がった最初の植物であることや、石炭はシダ植物(巨大なシダ＝スギナ)が地中に埋もれて炭化したものであること等々、興味のある話だった。その他標本づくりは、シダ植物の同定には大事であること。完璧な標本をつくるには、標本に使う古新聞を5～6回取り換える必要がある。取り換える時には、もう一度標本の特徴点を確認していると、自然に頭の中に入るようになるなど、先生の体験に裏打ちされた話に感心した。

午後からは岡発戸の谷津に入り、シダ植物の実地観察をした。30数種類のシダの観察をしたが、説明の内容をメモすることに追われ、実際に頭に入ったのは3分の1くらいだった。後でフィールドに入り、図鑑に照らして観察しないと覚えられないと思った。いずれにしても、今回の会は、講師や観察フィールドの選定が非常によく、充実した学習・観察会であった。